

景気見通し調査 調査結果

令和3年9月期

福井商工会議所 中小企業総合支援センター

【調査の概要】

当調査は、福井商工会議所管内の小規模事業所を中心とした短期的な景気動向を把握するため、毎年3月・6月・9月・12月の年4回実施している。

調査時期：令和3年8月30日(月)～9月7日(火)

調査方法：FAXによる送付・回収及びGoogleフォームによる回答

調査対象：福井商工会議所の会員 小規模事業所を中心に479件を抽出

(製造業・建設業・その他・・・従業員20人以下の事業所

卸売業・小売業・サービス業・・・従業員5人以下の事業所)

回答数：241件 (回答率 50.3%)

従業員数	製造業	建設業	小売業	卸売業	サービス業	合計
5名以内	19	23	25	18	51	136(56.4%)
6～10名以内	10	17	6	4	11	48(19.9%)
11名以上	25	3	7	9	13	57(23.7%)
小計	54(22.4%)	43(17.8%)	38(15.8%)	31(12.9%)	75(31.1%)	241(100.0%)

D I 値とは…ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良い」「上昇した」とする企業割合から、「悪い」「下落した」とする企業割合を差し引いた値。「現在」D I 値は3ヵ月前を基準とした現在の状況、「先行」D I 値は今後3ヵ月後の状況を予測したもの。

【調査結果の概要】

新型コロナウイルス感染の急拡大により景況は再び悪化 原材料高騰の影響も強まる

①業界の景況

4期ぶりに悪化、飲食を含むサービス業で顕著。卸売業では先行き不安。

②自社の景況

業界の景況感同様、4期ぶりに悪化。飲食業は依然として厳しく。

③売上高(受注高)

景況感と連動し悪化するも、製造業では5期連続の回復。

④販売価格

卸売業・建設業は回復、サービス業で先行き厳しく。

⑤仕入価格

2期連続で悪化、H26.6月期以来最低値。

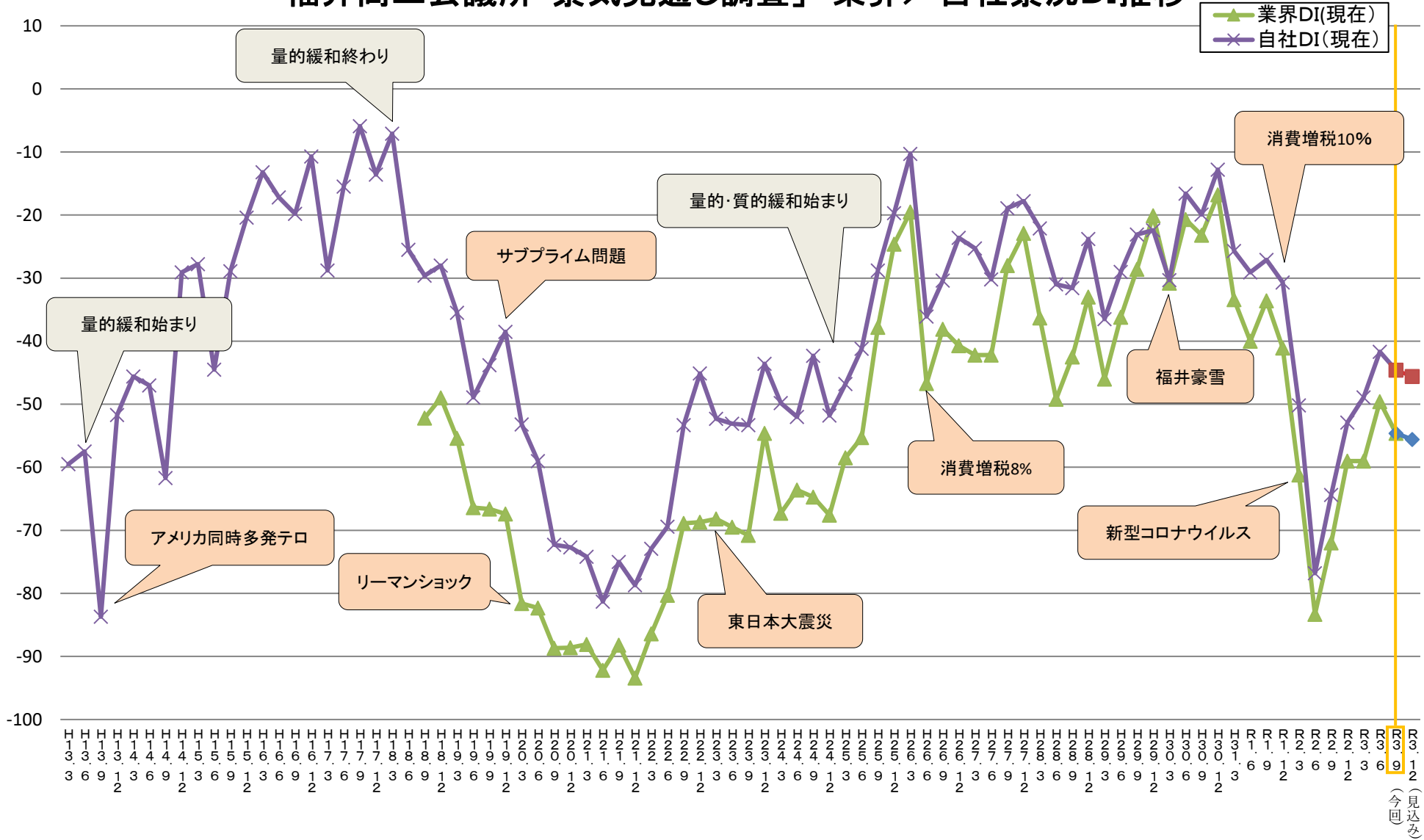
⑥採算(収支)

全業種で悪化。小売業、サービス業は大幅悪化。

【特別調査（消費税インボイス制度の準備状況について）の概要】

- 管内小規模事業者を中心とした231社のうち、消費税の課税事業者は219社、免税事業者は12社となった。
- 「適格請求書発行事業者登録」について、B to Cがメインとなる小売業、飲食業を含むサービス業は他業種と比べ「申請する」と回答した事業所が少なかった。一方で、「よくわからない」と回答した事業者は建設業が最も少なく、全体の7割程の事業者に認知が広まっている様子が窺えた。
- インボイス制度の導入に向けた準備状況について、「システムの入替・改修を行っている」と回答した事業所はわずか3.6%にとどまった。従業員規模別にみると、「特になにもしていない」との回答は従業員規模の小さい事業者ほど多い傾向にあり、従業員規模で準備状況に差が見られた。

福井商工会議所「景気見通し調査」 業界／自社景況DI推移

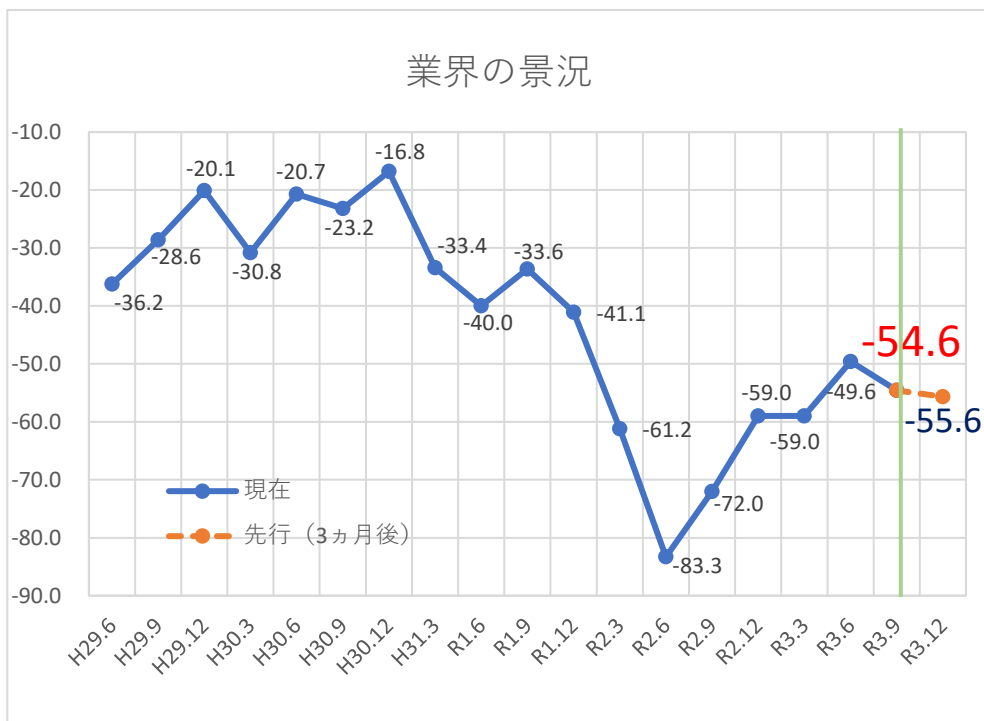


① 一業界の景況

【4期ぶりに悪化、飲食を含むサービス業で顕著】

業界全体の現在DI値は▲54.6となり、前回調査時（R3.6月期）から5.0ポイント下落した。また、先行DI値は▲55.6（-1.0ポイント）とわずかに悪化の見通しとなり、現在DI値、先行DI値共に4期ぶりの悪化に転じた。

業種別にみると、サービス業の現在DI値が▲61.3（-17.8ポイント）と大幅な悪化となった。特に、サービス業のうち、飲食業のみの現在DI値を見てもみると、前回調査時の▲72.7から▲96.3と、23.6ポイントの大幅悪化となった。これは、8月6日に発令された「福井県緊急事態宣言」とそれに伴う営業時間短縮要請の影響を強く受けた結果と推察される。一方で、卸売業の現在DI値は▲67.7（+1.7ポイント）と小幅な改善が見られたが、先行DI値は▲83.9となり現在DI値から16.2ポイントの悪化の見通しとなった。卸売業で今後景況が悪化すると回答した事業所を見てみると、6割以上の事業所で仕入価格が悪化しているとの回答があった。仕入価格が上昇している商品は幅広く、仕入先であるメーカー複数社から値上げの報告があったとの声も聞かれ、今後の経営に不安を抱えていることが窺えた。



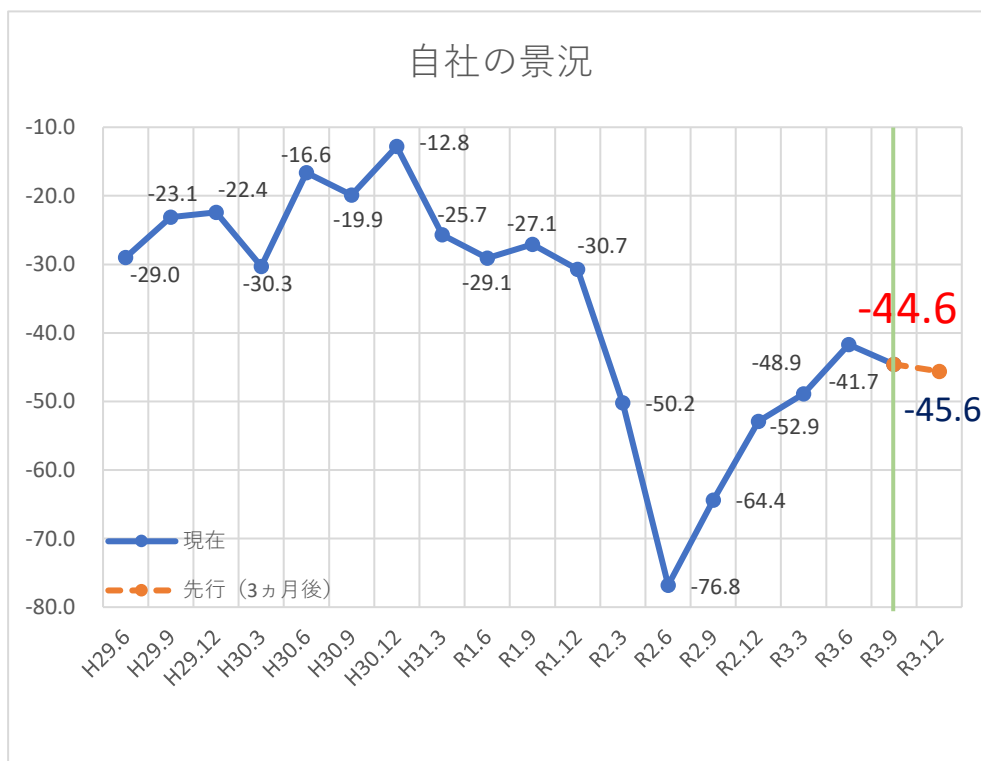
① 業界の景況	2021年7~9月（今期）		2021年10~12月（見通し）	
	現在DI値	変化幅	先行DI値	変化幅 (先行DI - 現在DI)
全業種	-54.6	-5.0	-55.6	-1.0
製造業	-52.8	1.0	-49.1	3.7
建設業	-25.6	5.2	-30.2	-4.6
小売業	-65.8	-4.0	-60.5	5.3
卸売業	-67.7	1.7	-83.9	-16.2
サービス業	-61.3	-17.8	-60.8	0.5

②—自社の景況—

【建設業・製造業で改善、飲食業は依然として厳しく】

自社の景況は、現在DI値が▲44.6（-2.9ポイント）と業界の景況感と同様にこれまでの4期連続の回復から悪化に転じた。また、先行DI値も▲45.6（-1.0ポイント）とわずかに悪化する見通しとなった。

業種別にみると現在DI値は、業界の景況感と同様に建設業・製造業で改善が見られた。一方で、サービス業の現在DI値は▲53.3（-14.6ポイント）と大幅に悪化し、サービス業のうち、飲食業では▲88.9（-16.2ポイント）と前回調査時（R3.6月期）から大きく悪化した。また、卸売業も現在DI値が▲64.5（-9.0ポイント）、先行DI値▲71.0（-6.5ポイント）と悪化が目立ち、新型コロナウイルスの感染急拡大による需要減少や仕入価格の上昇などの影響を大きく受けているものと推測された。



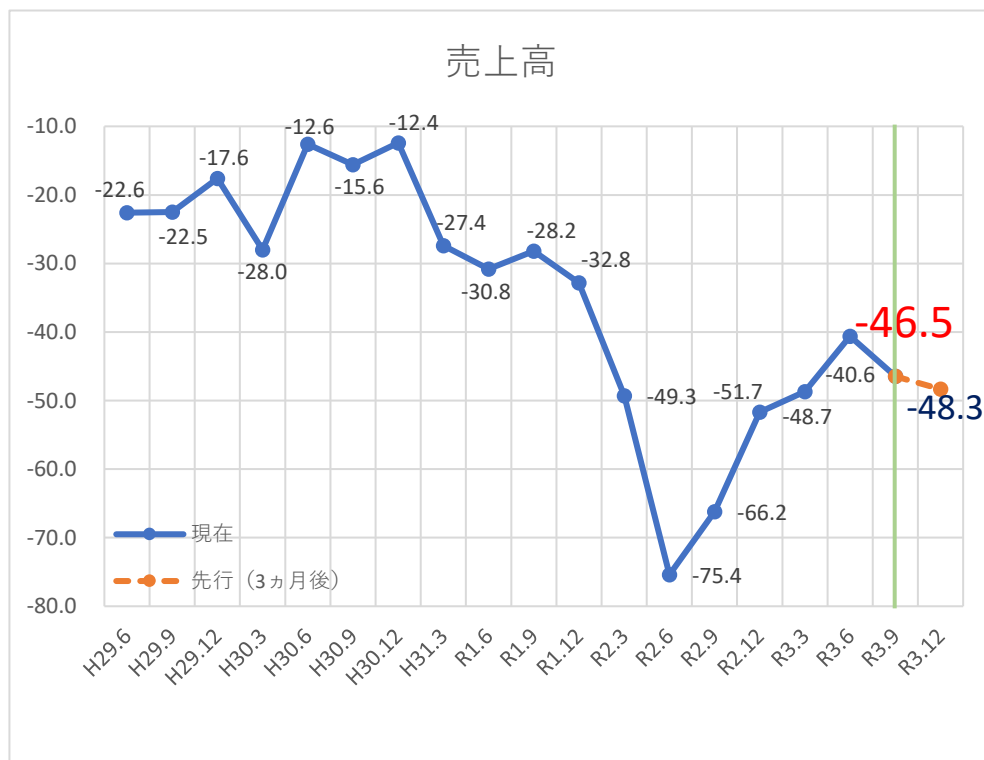
② 自社の景況	2021年7~9月（今期）		2021年10~12月（見通し）	
	現在DI値	変化幅	先行DI値	変化幅 (先行DI - 現在DI)
全業種	-44.6	-2.9	-45.6	-1.0
製造業	-37.0	11.0	-42.6	-5.6
建設業	-14.3	12.6	-11.9	2.4
小売業	-55.3	-9.8	-52.6	2.6
卸売業	-64.5	-9.0	-71.0	-6.5
サービス業	-53.3	-14.6	-52.7	0.6

③—売上高（受注高）—

【製造業では5期連続の回復、サービス業・小売業は大幅悪化】

売上高（受注高）の現在DI値は、▲46.5と前回調査時から5.9ポイント下落し、4期ぶりの悪化となった。また、先行DI値も▲48.3（-1.9ポイント）と今後も小幅ながら悪化が続くこと見通しとなった。

業種別にみると、製造業の現在DI値は▲42.6(+1.6ポイント)と5期連続の回復となった一方で、先行DI値では▲50.0（-7.4ポイント）と下落の見通しとなった。また、新型コロナウイルスの影響を受けやすい飲食業を含むサービス業や小売業では、「福井県緊急事態宣言」が発令されていたこともあり、両業種とも10ポイント以上の悪化が見られた。



③売上高	2021年7~9月（今期）		2021年10~12月（見通し）	
	現在DI値	変化幅	先行DI値	変化幅 (先行DI - 現在DI)
全業種	-46.5	-5.9	-48.3	-1.9
製造業	-42.6	1.6	-50.0	-7.4
建設業	-25.6	1.9	-20.9	4.7
小売業	-52.6	-16.3	-50.0	2.6
卸売業	-64.5	-6.2	-71.0	-6.5
サービス業	-50.7	-10.3	-52.7	-2.0

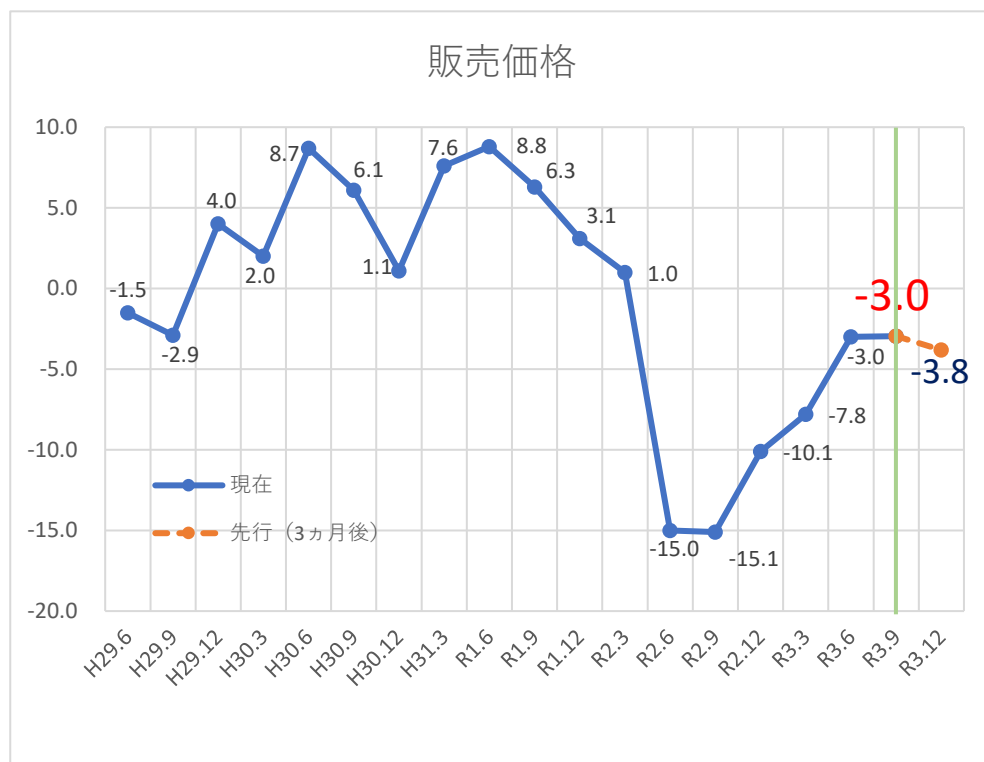
④—販売価格—

【卸売業・建設業は回復、サービス業で先行き厳しく】

販売価格の現在DI値は、▲3.0と前回調査時（R3.6月期）から変化はなかった。また、先行DI値も▲3.8（-0.8ポイント）と今後も変化は少ない見通しとなった。

業種別にみると現在DI値は、卸売業で22.6（+19.8ポイント）と大幅な回復が見られ、大きくプラスの値となった。これは、後述する仕入価格の上昇に対して、販売価格を引き上げざるを得なかったことも要因と考えられる。一方で、製造業やサービス業では大幅に悪化し、販売価格の引き上げが進まなかったことが窺えた。

尚、サービス業を飲食業と非飲食業に分けてみると、飲食業の現在DI値は▲25.9（-7.7ポイント）、非飲食業が▲2.0（-4.2ポイント）となり、大きな差が生じていることがわかった。



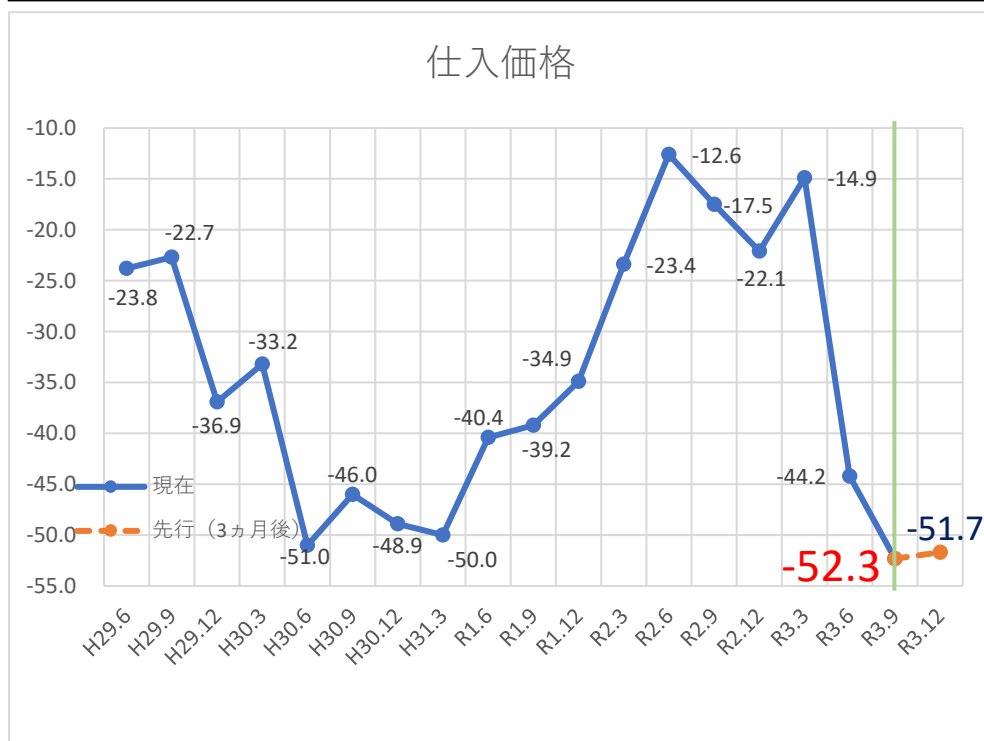
④販売価格	2021年7~9月（今期）		2021年10~12月（見通し）	
	現在DI値	変化幅	先行DI値	変化幅 (先行DI - 現在DI)
全業種	-3.0	0.0	-3.8	-0.8
製造業	-11.1	-9.2	-3.7	7.4
建設業	4.9	14.9	0.0	-4.9
小売業	-5.3	-2.3	-2.6	2.6
卸売業	22.6	19.8	22.6	0.0
サービス業	-11.0	-9.3	-18.1	-7.1

⑤—仕入価格—

【2期連続で悪化、卸売業で顕著】

仕入価格の現在DI値は、▲52.3(-8.2ポイント)と前回調査時からさらに悪化し、消費税が8%に引き上げられたH26.6月期調査(-57.0ポイント)以来、最も低い値となった。尚、前回の急激な悪化から連続して悪化した結果は過去にあまりなかった。一方で、先行DI値は▲51.7(+0.6ポイント)と大きな変化はない見通しとなった。この仕入価格の悪化の要因とみられる原材料の高騰は、前回調査に引き続き、経済活動が活発化している中国やアメリカを中心とした需要増加を発端としており、糸、鉄、非鉄金属、半導体、原油、木材、食用油など幅広く、今後も経営に大きな影響を及ぼすと予想される。

業種別にみると、特に卸売業では2期連続して20ポイント以上の下落が見られた。また、15ポイント以上下落した製造業では金属類など、サービス業では飲食業においては肉などの食材や調味料、飲食業以外ではガソリンなどの高騰などの影響が窺えた。



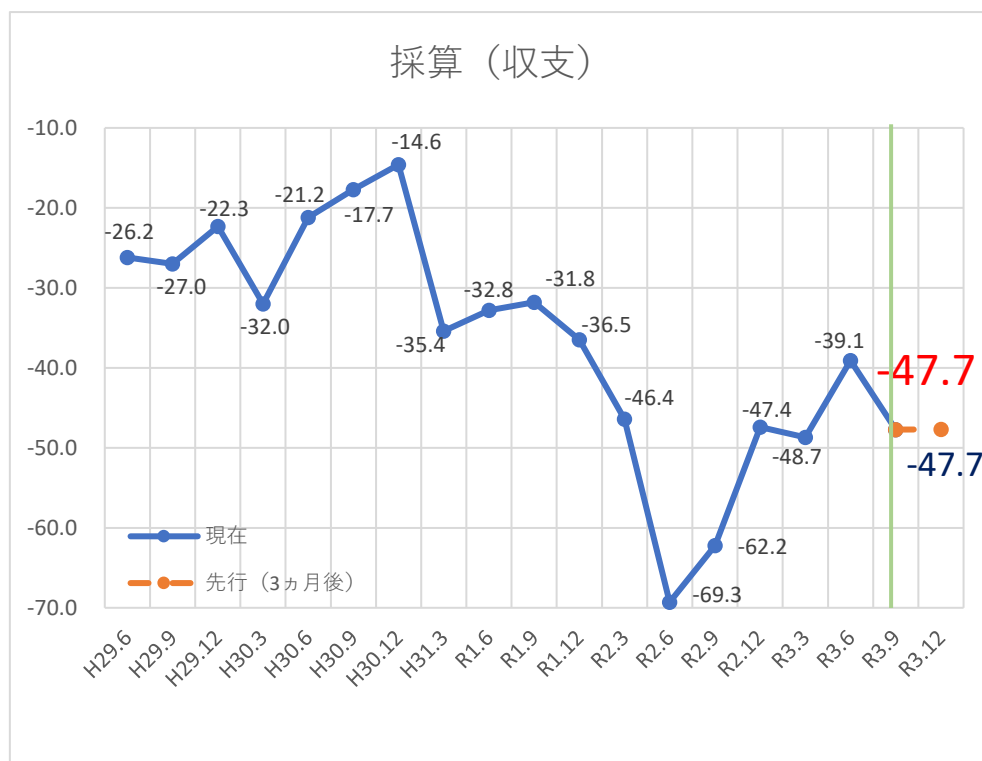
⑤仕入価格	2021年7~9月(今期)		2021年10~12月(見通し)	
	現在DI値	変化幅	先行DI値	変化幅 (先行DI-現在DI)
全業種	-52.3	-8.2	-51.7	0.6
製造業	-57.4	-15.1	-50.0	7.4
建設業	-58.1	2.6	-67.4	-9.3
小売業	-32.4	10.0	-32.4	0.0
卸売業	-71.0	-21.0	-64.5	6.5
サービス業	-47.2	-18.4	-47.9	-0.7

⑥—採算（収支）—

【再び全業種で悪化、卸売業は先行きに不安】

採算（収支）状況を表す現在DI値は、▲47.7と前回調査時から8.7ポイント下落した。また、先行DI値は現在DI値と同じく▲47.7と変化はなく、現状が続く見通しとなった。

業種別にみると、R2.6月期調査以来、全ての業種で悪化となったが、特に新型コロナウイルスの影響を受けやすい一般消費者を主な顧客とするBtoCの小売業▲47.4（-15.0ポイント）や、サービス業で▲54.7（-12.0ポイント）で10ポイント以上の大幅な悪化となった。また、卸売業の現在DI値は▲51.6（-4.4ポイント）、先行DI値は▲61.3（-9.7ポイント）となっており、今後も仕入価格の高騰が継続することで経営に与える影響が懸念される。



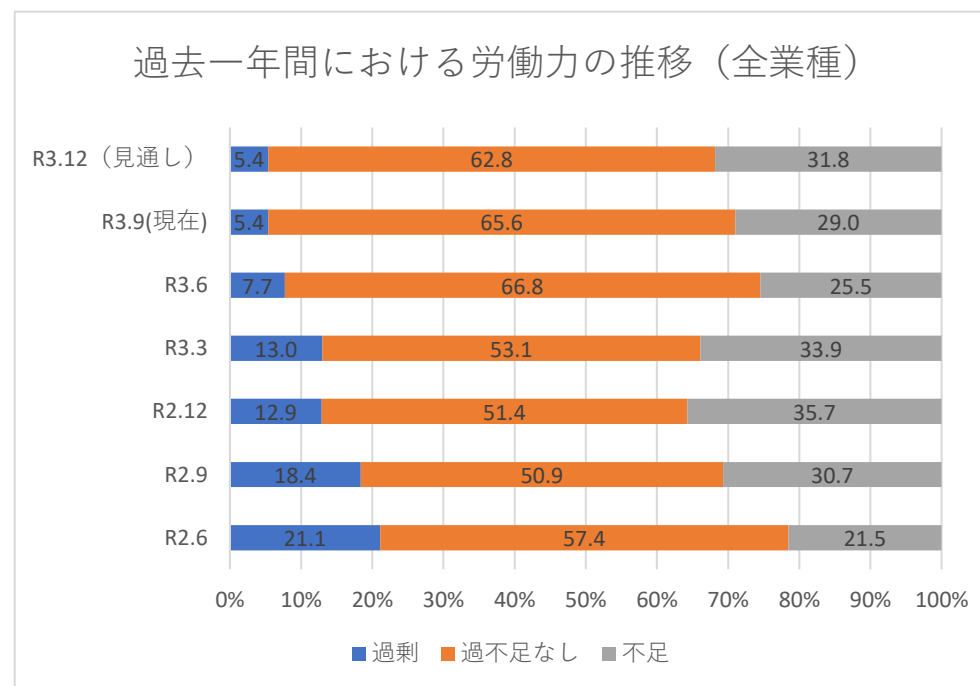
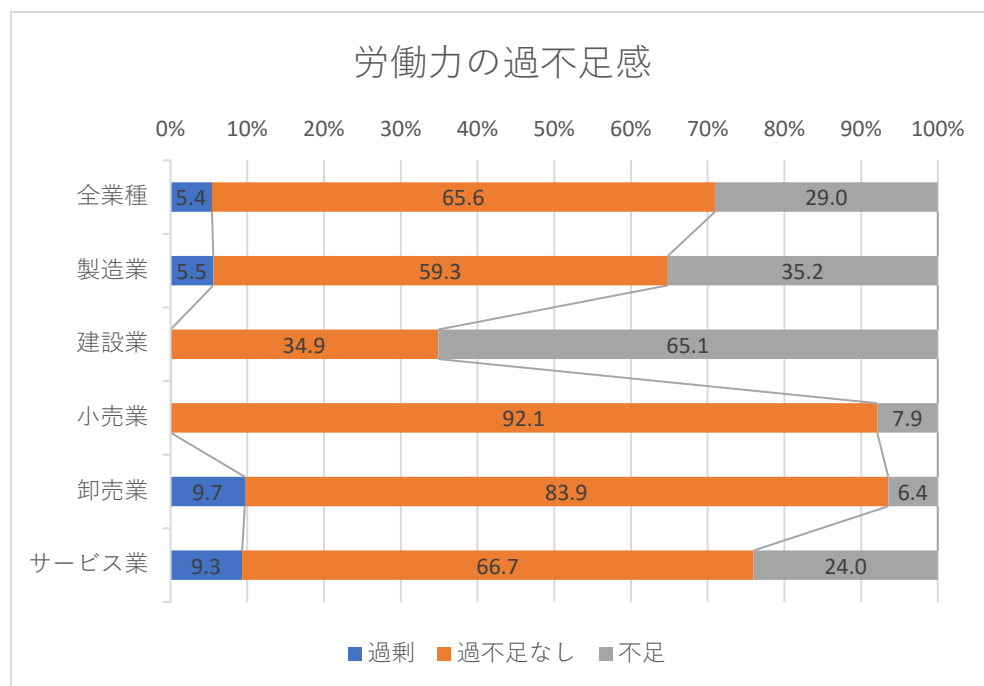
⑥採算	2021年7～9月（今期）		2021年10～12月（見通し）	
	現在DI値	変化幅	先行DI値	変化幅 (先行DI - 現在DI)
全業種	-47.7	-8.7	-47.7	0.0
製造業	-48.1	-2.0	-48.1	0.0
建設業	-32.6	-6.6	-27.9	4.7
小売業	-47.4	-15.0	-47.4	0.0
卸売業	-51.6	-4.4	-61.3	-9.7
サービス業	-54.7	-12.0	-53.4	1.2

⑦—労働力—

【景況感の回復と連動して製造業、建設業で不足感が強まる】

労働力については、「不足」の回答が29.0%（前回25.5%）と前回調査時から3.5ポイント増加し、小幅ではあるが2期ぶりの悪化となった。また、3か月後は、「不足」の回答が31.8%と若干増加したものの、ほぼ現状と変わらない見通しとなった。

業種別にみると、「不足」の回答が建設業で65.1%（前回44.2%）、製造業で35.2%（前回21.6%）と自社の景況感の回復と連動して急激に不足感が強まった。一方、小売業では自社の景況感の悪化と連動して、「不足」の回答は7.9%（前回23.5%）と前回調査から2期連続して15ポイント以上の下落となった。

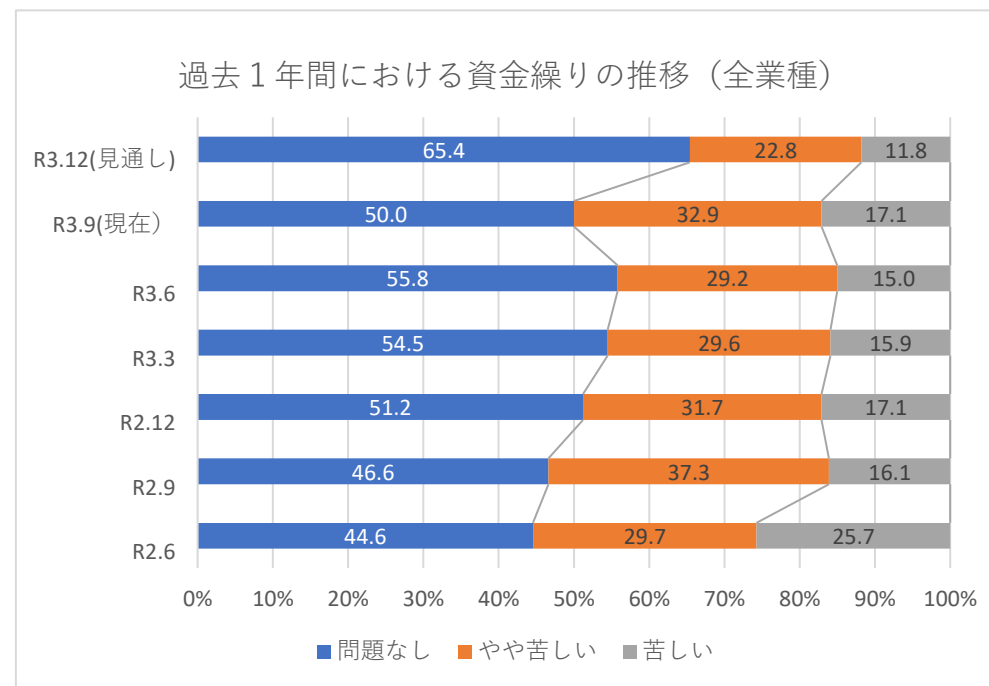
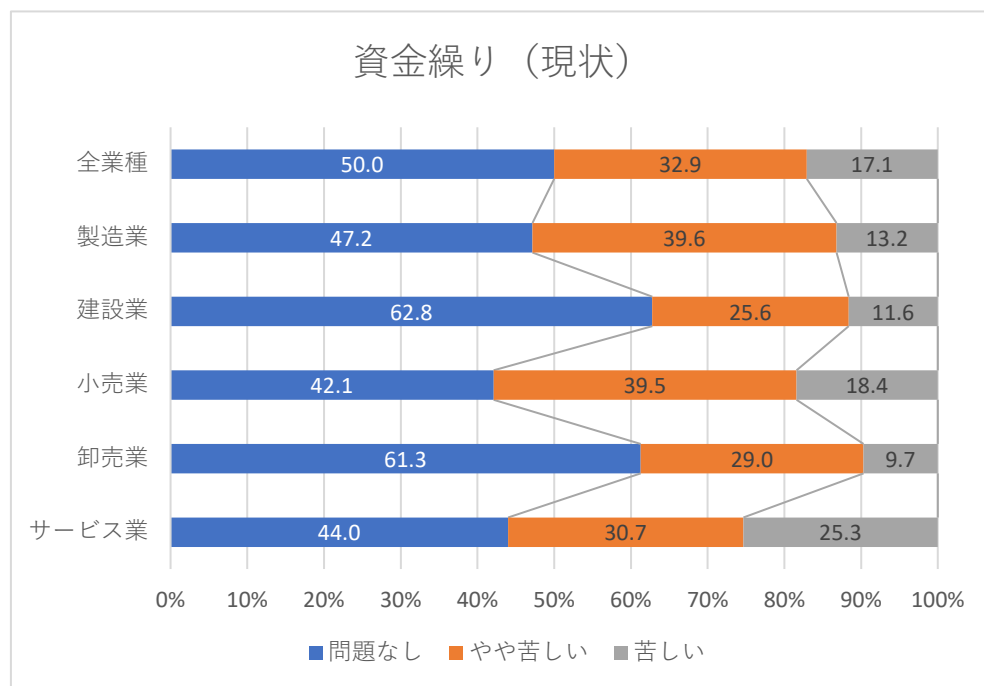


⑧—資金繰り—

【卸売業で大幅悪化、飲食業は苦しい状況が続く】

現在の資金繰りの状況は、「やや苦しい」、「苦しい」との回答が50.0%（-5.4ポイント）と5期ぶりに悪化した。

業種別にみると、卸売業の「やや苦しい」、「苦しい」との回答が38.7%で前回調査時（25.0%）から13.7ポイントと大幅に悪化した。これは、仕入価格の上昇、採算の悪化も影響していると考えられる。また、サービス業のうち、飲食業では「やや苦しい」、「苦しい」との回答が81.4%（前回75.0%）となり、依然として苦しい状況が続いていることが見て取れた。



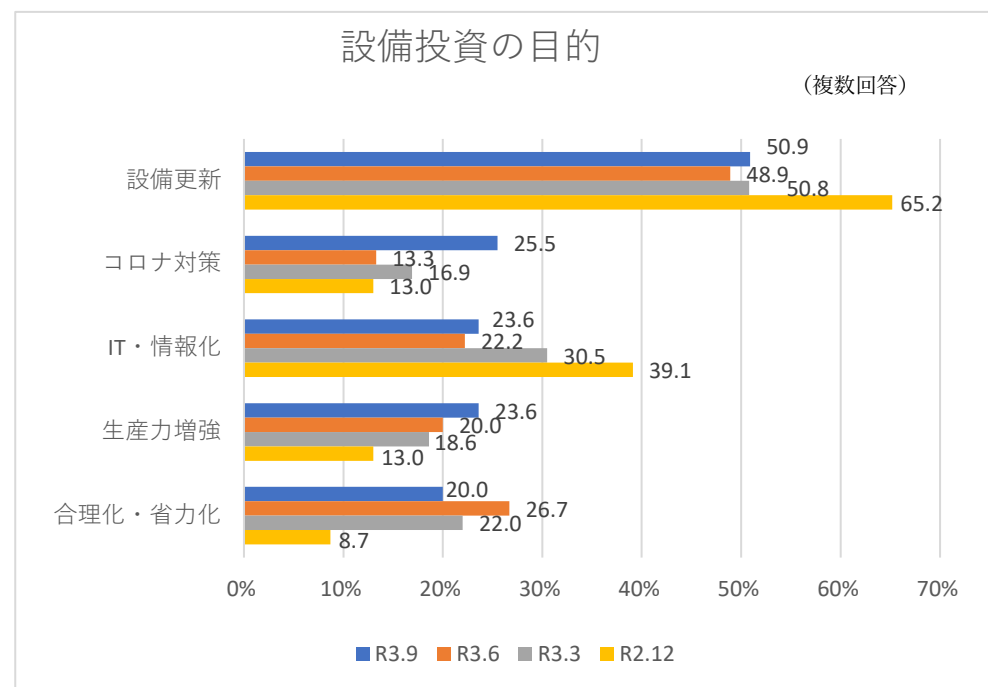
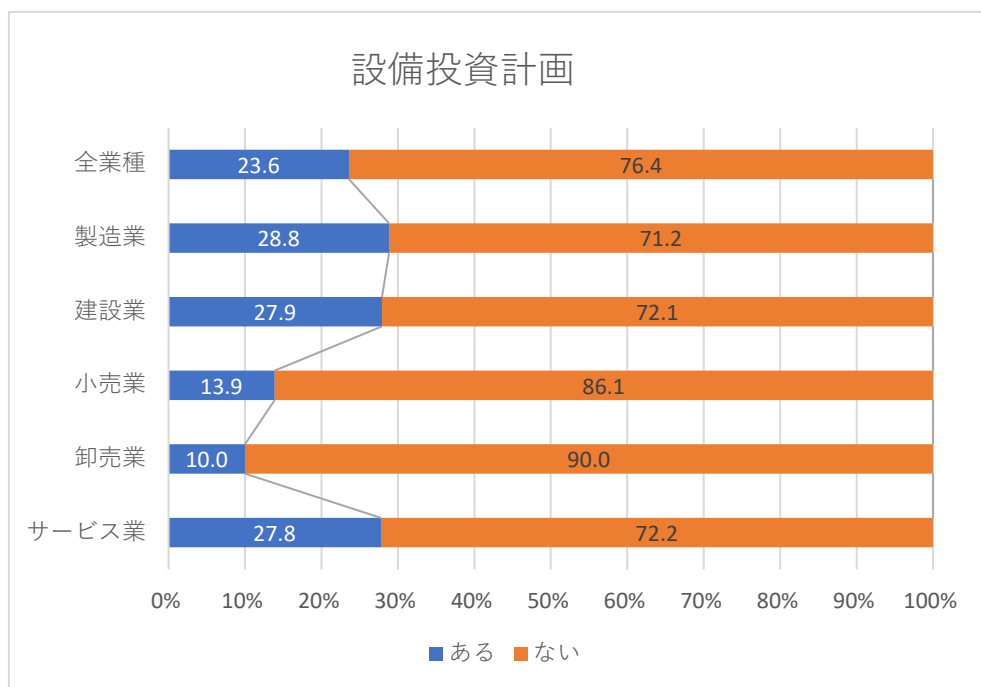
⑨—設備投資—

【「コロナ対策」を挙げる回答が再び増加】

今後3ヵ月以内の設備投資計画では、23.6%が「投資計画あり」と回答し、前回調査時より4.2ポイント増え、R2.9月期調査から5期連続で増加となった。

業種別にみると、「投資計画あり」との回答が前回調査時と比べて、建設業は28.8%（前回14.3%）で14.5ポイント、サービス業は27.8%（前回22.8%）で5.0ポイント、製造業は28.8%（前回24.5%）で4.3ポイントとそれぞれ増加した。

「投資計画あり」と回答した事業所の投資内容では、「設備更新」が50.9%（前回48.9%）で2.0ポイント増加し、引き続き最多の回答となった。また、「コロナ対策」はR2.6月期調査（31.4%）をピークに回答が少なくなっていたが、25.5%と前回から12.2ポイントの増加となり、設備投資の目的に移り変わりがみられた。長引くコロナ禍により、自治体がコロナ対策の補助金や助成金を創設していたことも要因と考えられる。

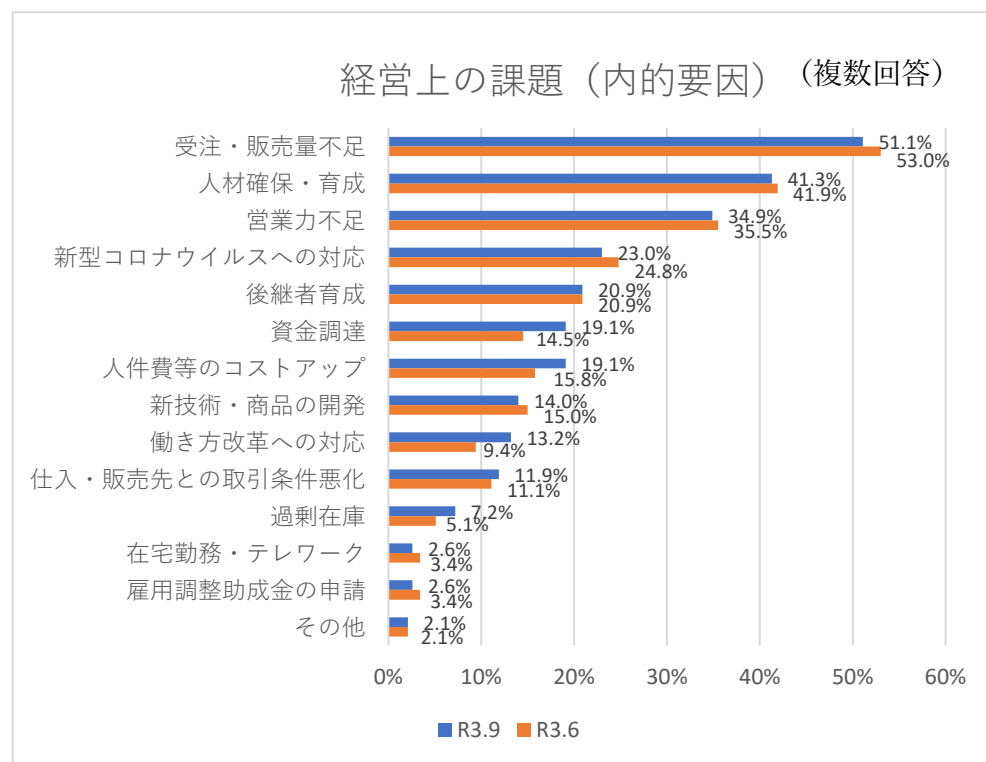


⑩—経営課題（内的要因）—

【資金繰りの悪化と連動して、「資金調達」を挙げる回答が増加】

内的要因における経営上の課題は、「受注・販売量不足」を挙げる回答が51.1%と前回調査時と同様に最も多かった。また、他の経営上の課題（内的要因）も、前回から大きな変化は見られなかったが、その中でも資金繰りの悪化と連動して「資金調達」が19.1%で4.6ポイントの増加となった。また、「人件費等のコストアップ」は19.1%で3.3ポイントの増加となった。これは今年10月にはじまる最低賃金の引き上げも要因と考えられる。

業種別にみると、建設業では労働力の不足感と連動して「人材確保・育成」が最大の課題となり、前回からさらに11.3ポイントの増加となった。また、サービス業のうち、飲食業では「新型コロナウイルスへの対応」が55.6%、非飲食業では「営業・販売量不足」、「人材確保・育成」が35.3%と同率で最も多い回答となった。



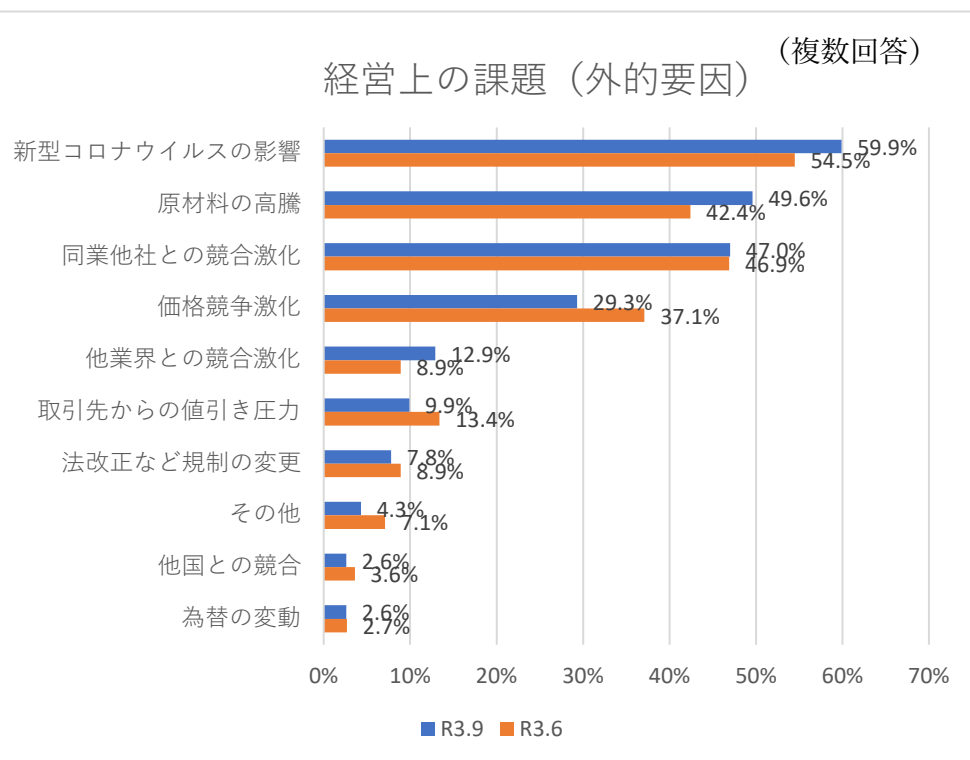
業種別経営課題 （内的要因） 【複数回答】			受注・販売量不足	人材確保・育成	営業力不足	新型コロナウイルスへの対応
			全業種	R3.9	51.1%	41.3%
	R3.6	53.0%	41.9%	35.5%	24.8%	
製造業	R3.9	66.0%	35.8%	39.6%	13.2%	
	R3.6	68.6%	31.4%	39.2%	13.7%	
建設業	R3.9	29.3%	78.0%	31.7%	14.6%	
	R3.6	31.5%	66.7%	27.8%	24.1%	
小売業	R3.9	67.6%	27.0%	24.3%	27.0%	
	R3.6	42.5%	17.5%	25.0%	20.0%	
卸売業	R3.9	77.4%	29.0%	48.4%	22.6%	
	R3.6	66.7%	30.8%	38.5%	28.2%	
サービス業	R3.9	32.9%	37.0%	32.9%	32.9%	
	R3.6	37.2%	34.6%	29.5%	24.4%	

⑪—経営課題（外的要因）—

【原材料の高騰を挙げる声が続く増加】

外的要因における経営上の課題は、依然として「新型コロナウイルスの影響」が59.9%（前回54.5%）と最も多く挙げられ、前回調査まで4期連続で減少していたが、最近の感染急拡大の状況もあって再び増加となった。また、前回調査で急増した「原材料の高騰」は49.6%（前回42.4%）と2期前のR3.3月調査時（24.2%）と比べて2倍以上となっており、影響を受ける事業所が増加し続けている。

業種別にみると、小売業以外の業種において「原材料の高騰」を挙げる回答が前回調査より増加しており、建設業と製造業では最も多く課題として挙げられた。また、サービス業のうち、飲食業では「新型コロナウイルスの影響」を挙げる回答が92.0%、次いで「原材料の高騰」を挙げる回答が56.0%となった。課題として挙げる回答の多かった「新型コロナウイルスの影響」と「原材料の高騰」は、経営への影響が懸念されることから、今後も注視していく必要があると考えられる。



業種別経営課題 （外的要因） 【複数回答】		新型コロナウイルスの影響	原材料の高騰	同業他社との競争激化	価格競争激化
		全業種	R3.9 59.9%	49.6%	47.0%
	R3.6	54.5%	42.4%	46.9%	37.1%
製造業	R3.9	55.8%	57.7%	44.2%	30.8%
	R3.6	59.2%	44.9%	40.8%	32.7%
建設業	R3.9	39.0%	68.3%	61.0%	29.3%
	R3.6	38.3%	61.7%	63.8%	51.1%
小売業	R3.9	64.9%	35.1%	54.1%	35.1%
	R3.6	53.1%	43.8%	34.4%	31.3%
卸売業	R3.9	64.5%	58.1%	41.9%	41.9%
	R3.6	65.7%	48.6%	45.7%	40.0%
サービス業	R3.9	70.4%	36.6%	39.4%	19.7%
	R3.6	57.4%	21.3%	45.9%	31.1%